

市長から市民のみなさんへ

82

山陽小野田市長 白井 博文

ごみの減量化にご協力を

表紙写真でご紹介のとおり、10月から指定ごみ袋が新しくなりました。この件に関しては、広報紙等で周知に努めてきたつもりですが、市民のみなさんへ正確な情報が伝わらず、若干、混乱が生じたと聞いています。この場を借りてお詫び申し上げます。

値上げ値上げと続く中での、今回のごみ処理有料化に伴う指定ごみ袋代金の値上げとなりましたが、実は有料化の話は2～3年前から協議がなされていて、2年前の9月に市議会の「行財政改革検討特別委員会」から提出された最終報告書にも、「ごみ処理への応益負担の観点から、あわせて将来の焼却炉の改修費用をも考慮し、ごみ手数料の徴収のあり方について検討すべきである。」と明記されています。関係団体等からの様々な意見や他自治体の導入事例などを参考にしながら、現方式に決定した経緯をご理解いただきたいと思います。

このコラムでも以前お話したことですが、今回の有料化の大きな目的は「ごみ処理にかかる費用の一部を負担していただく」ことでしたが、加えて、市民のみなさんのごみ問題に対する意識が高まり、更なるごみの減量化へのきっかけとなることへの期待もあります。後者については、地球規模で考えたときに山陽小野田市の割合は限りなく小さいものであるかもしれませんが、市民一人ひとりの取組みが地球温暖化防止へ結びついていくことは確かです。お願いばかりになりましたが、

有料化に伴う費用負担へのご理解とご協力とともに、地球が発している悲鳴のようなものに耳を傾け、ごみ減量化へのちょっとした気配りをもっていただきたいと、重ねて市長として広く市民に呼びかけたいと思います。

財政状況の指標について

前号でお話ししましたように、山陽小野田市の財政の現状についての記事を4ページから掲載しています。財政関連の記事をお伝えする場はこれまでも何度かありましたが、難解な専門用語の数々に「財政」を市民のみなさんへうまくお伝えできないもどかしさを感じていました。今回の特集記事は、私の個人的感想ではありますが、読みやすく、わかりやすい内容になっています。ぜひ、ご一読いただき、市の最重要課題である財政の現状について理解を深めていただく機会になることを希望します。

5つの指標の中で、注目していただきたいのが収入に対しての借金返済の割合である「実質公債費比率」です。昨年度、「赤信号」一歩手前の24.5まで上昇しましたが、今年度は、算定方法の変更という追い風があったにしろ、4ポイント下がって19.8まで減少しました。健全化への道を踏み出したということその数値が意味しています。

ただし、あくまでもこれは数値上の話で、実際に市の「^{ふところ}懐」が豊かになっているわけではありません。大量退職に伴う退職金の支払いの問題、市民病院の不良債務解消、土地開発公社の健全化、予想以上に早いスピードで進展している少子高齢化への対応などが山積している現状は楽観視できるものではなく、グラグラしている「足元」が、ちょっとしたきっかけで崩れる可能性があります。無理せず、一步一步前進していくことが、結局、財政再建への一番の近道になりそうです。

対話の日

【いずれの会場も19:00から】



10月23日(木)森本公会堂

11月13日(木)高砂町・光栄町自治会館